

「ベンチャー起業によせて」(2) 一情報力一

福川 清史(1979年4月～1981年3月 研究生)

前は「小心者たれ」という小タイトルで述べさせて戴いた。今回は「情報力」ということを述べてみたい。情報はベンチャー企業運営(ベンチャーに限らないが)には特に重要で、自分たちの置かれている位置づけ、方向性、戦略・戦術の妥当性を見るベースになるものである。また戦略・戦術の見直しをするベースにもなる。

釈迦に説法かも知れないが、情報を英語でいうと二通りの言い方が出てくる。Information と Intelligence だ。その違いは? Information は公になっているもの、新聞、テレビ、ラジオ、特に最近ではインターネット、などで提供されるもの。これらは日々溢れるほど出回っている。ベンチャー関係でもインターネットでキーボードを叩けば、即座に情報を入手することができる。これらの Information の重要性は言うまでもない。片や Intelligence は Information と Information をいくつも組み合わせて、業界のトレンドを読み、自分なりのストーリーを描くことにあり、また更に重要なことは、公には開示されていないが、水面下で友人、知人から得られる情報である。

これらの情報を提供してくれる友人、知人をどれだけ持っているか、そういう人間関係を構築して保っているかが情報交換の場として重要で、普段から会って話をしたり、お茶を一緒にしたり、たまにはお酒も一緒にすることで、拡大、継続が可能。これらも努力の一環。また情報交換のときに、自分は表面的な情報しか出さずに、相手からは際どい情報を取りたい、という場面にも度々遭遇したことがあったが、

これは無理な話。自ら際どい情報まで提供しないと、相手も出してこないものである。小生も海外会社との交渉の場数を相当踏んできたが、交渉相手との人間関係において「お前は彼とどれ位話せる関係にあるか?」と、上司によく問われたものである。ビジネス交渉相手は敵ではなく、信頼関係がベースになるので、人間関係に絡めて余談ながら述べた。

さて、インターネットで、情報交換で、その都度得られる情報は点としての情報に過ぎない。世の中には点としての情報に満ち溢れている。日々出てくる情報で混乱するくらいに。こちらから取りに行かなくても、洪水のように受動的に知らされる。それら溢れる点としての情報に囚われていると惑わされ、単に混乱させられるのみ、となる。そこに自分の(ベンチャー会社の)ポリシー、戦略に合わせて、これら点の情報を線に、線から面に、面から立体に、と組み立て、ストーリーとして情報を整理する習慣を持つようにしたい。ポリシー、戦略に照らし合わせることで、点の情報の重要性、非重要性が整理され、スッキリとしたストーリーが見えてくるはず。

整理された情報、ストーリー化された情報をベンチャー運営に照らし合わせてみると、運営の方向性は間違っていないか、修正すべきか、などが見えてくるはずである。

今回は「ネットワーク」について述べたい。

同窓会 HP: 2023年5月16日公開